

観 点	発 行 者						
	2・東書	4・大日本	11・学図	17・教出	61・啓林館	104・数研	116・日文
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	○ 連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力を育む活動（第2学年）						
	- 運動場のトラックにセパレートコースをつくる際のスタート地点の差を求める - バスケットボールの3点シュートと2点シュートの本数を求める	- 体育大会のトラック競技のレーンをつくる際のスタート位置の決め方を考える - 封筒1枚と写真1枚の重さを求める	- 連続する3つの整数の和に共通する性質について考える 11枚綴りの遊園地のチケットを使い切った場合の乗り物の乗り方を考える	- 連続する3つの整数の和にどのような性質があるか予想し、説明する - バスケットボールの3点シュートと2点シュートの本数を求める	- カレンダーで、横に並んだ3つの整数の和がどのような数になるか予想し、説明する 36人を3人班と4人班に分ける	- 誕生日を当てるマジックのしくみについて説明する - クラスの30人全員がどこかの班に入るように、職場体験実習の班をつくる	- 陸上トラックのセパレートコースの1周の長さの差を求める - まんじゅうをちょうど32個買うための箱数を求める
	○ 平面図形と空間図形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力を育む活動（第1学年）						
	- 同じ形に着目し、新しいしきつめ模様をデザインする 2種類のテントの広さを比べる	- 卒業生が校庭にタイムカプセルを埋めた地点を求める - 身のまわりの立体をグループ分けする	「麻の葉」と呼ばれる日本の伝統的な文様の中から図形を探す - 身のまわりの立体を分類する	- 宝探しゲームで宝物がある場所をどのように見つけたのか説明する - アイスクリームの包み紙を開くときの図形を考える	- 放牧場から川によって小屋へ帰る道のりが最も短い場合を求める - いろいろな立体の形をした水そうの容積を調べる	- 地図や写真などから直線を探す - 形の特徴に注目して、いろいろな形の建物を探す	- 地図を使って、写真を撮影した花だんの場所を見つける - 建物の形の特徴について考える
	○ 関数 $y=ax^2$ についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を育む活動（第3学年）						
	- 斜面を転がる球の転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる - ブレーキ痕が25mのときの自動車の走行時の速さを推測する	- 斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と距離の関係を考える - 時速100kmで走る自動車の停止距離を求める	- スキージャンプで滑り始めてからの時間と降りた距離の関係を表やグラフで調べる - 自動車がブレーキをかけたとき、止まるまでに進む距離の求め方を説明する	- 斜面を転がる球の転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる - 自動車の速さと制動距離の関係について考える	- 斜面を転がる球の転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる - 自動車の速さと制動距離の関係について考える	- 斜面に沿ってボールを転がしたときの時間と距離の関係を表から考える - 自動車の速さと制動距離の関係を説明する	- 表から、斜面でボールを転がしたときの5秒後の距離を予想する - 紙を2等分するように切った回数と紙の枚数の関係について考える
	○ データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確実な事象の起こりやすさについて考察したりする力を育む活動（第1学年）						
	- 現在のチームと優勝時のチームの1500m走の記録を、表やグラフに整理し、分布の特徴を読み取る - A社とB社では、どちらのツアーの方がクジラに会いやすいかを考える	- クラスの生徒の「10cm」の長さの感覚を紙テープを使って調べ、そのデータの傾向を調べる - コイン、瓶のふた、ペットボトルのふたの「表になる場合の起こりやすさ」を	2つのクラスの「ルーラーキャッチ」の記録を比べ、どちらのクラスの反応が速いかを調べる - 国勢調査のデータを基に、都道府県の人口の傾向について話し合う	- 紙コブタの滞空時間についての記録を表やグラフに整理し、分布の特徴を読み取る - スキーブーツのサイズと貸し出し回数を整理し、スキーの購入について考える	- 紙ふぶきの滞空時間についての記録を表やグラフに整理し、分布の特徴を読み取る - まわり将棋において、駒を投げたときのその出かたの出やすさを考える	- 過去の気温と天気データのデータから行きたい場所の気温について調べる - ペットボトルのキャップを投げて、何回表向きになるか予測する	20世紀の100年間における平均気温のデータから平均気温が高くなってきているか調べる - ペットボトルのキャップを投げたとき、表向きと裏向きの出やすさについて判

		調べる		る			断する
	○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応（第2学年）						
	・平行線と角の学習において、角の大きさを求める方法を考え、求め方を比べて、共通点や相違点について話し合う	・式と計算の学習において、文字を使った式の減法の計算が間違っている理由を説明し、複数の方法で式の値を求め、考えを比べる	・式の利用の学習において、「連続する3つの数の和は、3の倍数になる」と言えるか話し合い、文字式を使って説明する	・平行線と角の学習において、角の大きさを求める方法を考え、求め方を比べて、共通点や相違点について話し合う	・図形の性質の利用の学習において、他者の求め方について、どのように考えたか説明し、問題解決の過程を振り返って、気付いたことやもっと調べてみたいことを話し合う	・連立方程式の学習において、カーネーションとユリのセットの値段を基に、カーネーション1本あたりの値段を求める方法を考え、ユリの数をそろえるための工夫を考える	・式の計算の学習において、身近なことから数学の問題のために、条件を明確にし、式の意味を読み取って振り返って考える
内容の構成・排列、分量等	○ 系統的・発展的に学習できる工夫（第3学年）						
	・平方根の考えによる解法の学習の後に、因数分解を利用した解法の学習	・因数分解による二次方程式の解き方の学習の後に、平方根の考えを使った二次方程式の解き方の学習	・因数分解を使った解き方の学習の後に、平方根の考えを使った解き方の学習	・因数分解を利用した解法の学習の後に、二次方程式の解の公式による解法の学習	・平方根の考えによる解法の学習の後に、因数分解を利用した解法の学習	・因数分解による解き方の学習の後に、平方根の考えを使った解き方の学習	・関数 $y=3x^2$ の学習の後に、比例定数を負の数に広げて考える学習
	○ 内容の分量（前回の教科書からの増量）						
	・第1学年 324 ページ(約4%増)	・第1学年 324 ページ(ほぼ同様)	・第1学年 328 ページ(約4%増)	・第1学年 346 ページ(約4%増)	・第1学年 302 ページ(約10%減)	・第1学年 320 ページ(約12%減)	・第1学年 326 ページ(約1%増)
	・第2学年 220 ページ(約4%増)	・第2学年 250 ページ(ほぼ同様)	・第2学年 270 ページ(ほぼ同様)	・第2学年 278 ページ(約1%減)	・第2学年 238 ページ(約10%減)	・第2学年 270 ページ(約11%減)	・第2学年 266 ページ(約5%増)
	・第3学年 292 ページ(約3%増)	・第3学年 302 ページ(ほぼ同様)	・第3学年 330 ページ(約6%増)	・第3学年 314 ページ(約3%増)	・第3学年 282 ページ(約12%減)	・第3学年 328 ページ(約11%減)	・第3学年 304 ページ(約3%増)
使用上の配慮等	○ 学習意欲を高める工夫						
	・「節の導入」で、「○○の利用」で、生徒の身のまわりにある題材を扱う	・章や項の導入、利用の場面で、学習する課題の題材を身近なものから選択する	・節の導入で、身近な題材を扱い、話し合いの活動を取り入れるため、「Q」を設ける	・「大切にしたい数学的な見方・考え方」で、数学的な見方・考え方を既習内容の具体例を基に紹介する	・学習の導入で、日常の事象を取り上げ、生活と関連付けて学習に取り組めるようにする	・学んだ内容を活用して解決するタイプのTRYを各所に設ける	・章の扉で、生徒に疑問を抱かせ、どうすれば疑問を解消できるのかと興味を引くようなことながら写真やイラストを使って紹介する
	・MATHCONNECTとして、「数学」と「数学・身のまわり・社会」とのつながりを示す	・「MATHFUL（マスフル）」として、数学の歴史や数学者、美術や音楽などの芸術分野との関わりを紹介する	・章末の「数学へのいざない」として、章の内容を深めたり広げたりする興味深い事象を提示する	・実社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を取り上げる	・「学習のとびら」でその節の学習を進めれば解決できる身のまわりの問題などを取り上げる	・「考えよう」「調べよう」で、活動的な話題や数学に関する職業について紹介する	・その疑問を数学の問題として解決していく過程を丁寧に扱う
	○ 主体的に学習に取り組む工夫						
	・「Q（考えてみよう・調べてみよう）」で、「補助発問」を手掛かりに、生徒が既習を生かすこ	・項の導入で「考えよう」を設置し、生徒自らが問題や疑問を見いだすことができるようにする	・各章・各節のはじめに「疑問を発見する」ページを設定し、身のまわりの生活や数学の学習の	・「○章を学習する前に」や「もどって確認」で、適宜、既習内容を振り返ることができるように	・これまでに学んだことを基にして考え、予想して、新しい学びにつなげる「ひろげよう」を設	・章や節の最初で、身のまわりにある事象から数学を見いだすことができるようにする	・巻頭に「主体的に学習に取り組む態度」とはどのような態度なのかが生徒や保護者にも分かる

	- とができるようにする ・章の問題Aに章で働かせた見方・考え方を振り返ってレポートにまとめる「章のふり返しレポート」を新設する	・学習の区切りで、学んだことを振り返り質問を設ける	・中から疑問を発見できるようにする ・章末の「できたこと・さらに学んでみたいこと」で、自己評価を行うことができるようにする	・する ・章末「学習のまとめ」で、学習の感想を書かせ、場面を設け、学習を振り返って評価・改善できるようにする	・定する ・自らの学習を調整しながら学ぶ「数広場」を設ける	・生徒キャラクターの対話場面を示し、課題に取り組む際にどのようなことに着目すればよいか、一目で分かるようにする	・ように、具体例とともに明示する ・各章で、数学のよさについて考える活動や数学を生活や学習に生かす活動に適宜設ける
	○ 使用上の便宜 ・小さい文字にUDフォントを使用 ・カラーUDの徹底 ・二次元コードを掲載 ・文章を文節改行	・UDフォントを使用 ・レイアウトの工夫 ・二次元コードを掲載	・カラーUDの徹底 ・二次元コードを掲載 ・文章を文節改行	・UDフォントを使用 ・余白を生かしたレイアウト ・二次元コードを掲載 ・文章を文節改行	・UDフォントを使用 ・色覚の特性によらない配色 ・二次元コードを掲載 ・文章を文節改行	・UDフォントを使用 ・色覚の特性によらない配色 ・二次元コードを掲載 ・文章を文節改行	・UDフォントを使用 ・色覚の特性によらない配色 ・二次元コードを掲載 ・文章を文節改行
指導上の配慮等	○ 地域素材 ・北海道の最低気温が扱われている（第1学年） ・北海道に関わる問題文や写真、地図が扱われている（第1, 3学年）	・旭川市の最高・最低気温が扱われている（第1学年） ・北海道に関わる問題文や写真、地図等が扱われている（全学年）	・北海道の最高気温が扱われている（第1学年） ・北海道に関わる問題文や写真、地図等が扱われている（全学年）	・旭川市彫刻美術館の写真が掲載されている（第2学年） ・北海道に関わる問題文や写真、地図等が扱われている（全学年）	・旭川市の気温を求める問題が扱われている（第1学年） ・北海道に関わる問題文や写真、地図等が扱われている（全学年）	・北海道の気温が扱われている（第1学年） ・北海道に関わる写真や地図が扱われている（第1学年）	・北海道の気温が扱われている（第1学年） ・北海道に関わる問題文や写真等が扱われている（第1, 3学年）
	○ ICTの活用 ・図形を動かすシミュレーションや動画などのデジタルコンテンツを扱う ・練習問題で、解決のヒントが段階に応じて表示される	・図形を動かすシミュレーションや動画などのデジタルコンテンツを扱う ・社会で数学が生かされた資料が閲覧できる	・図形を動かすシミュレーションや動画などのデジタルコンテンツを扱う ・練習問題で、基礎的・基本的な内容の習熟が図られる	・図形を動かすシミュレーションや動画などのデジタルコンテンツを扱う ・練習問題で、必要に応じて考え方のヒントを確認しながら問題解決ができる	・図形を動かすシミュレーションや動画などのデジタルコンテンツを扱う ・練習問題で、基礎的・基本的な内容の習熟が図られる	・図形を動かすシミュレーションや動画などのデジタルコンテンツを扱う ・練習問題で、習熟度に応じて学ぶことができる	・図形を動かすシミュレーションや動画などのデジタルコンテンツを扱う ・練習問題で、基礎的・基本的な内容の習熟が図られる
	○ 小中連携した指導 ・巻頭目次の「前の学習」や巻末の「数学の目でふり返ろう」で、小学校の既習事項と中学校数学との系統性を示す ・本文中の「ちょっと確認」や巻	・巻頭目次の「これまで学んだこと」で、小学校の既習事項と中学校数学との系統性を示す ・本文中の「思い出そう」や巻末	・巻頭目次の「小学校で学んだこと」で、小学校の既習事項と中学校数学との系統性を示す ・各領域の「ふりかえり」で、小	・巻頭目次の「ふりかえり」や巻末の「学びのマップ」で、小学校の既習事項と中学校数学との系統性を示す ・本文中の「もどって確認」で、	・本文中の「ふりかえり」や本文中と巻末の「学びをふりかえろう」で、小学校の学習内容を振り返る	・巻末の「中学1年のまとめ」で、小学校の既習事項と中学校数学との系統性を示す ・本文中の「ふりかえり」で、小	・巻頭目次の「算数で学んだこと」で、小学校の既習事項と中学校数学との系統性を示す ・本文中の「確かめ」や巻末の「算

	末の「学びのベース」で、小学校の学習内容を振り返る	「小学校算数のふり返し」で、小学校の学習内容を振り返る	学校の学習内容を振り返る	小学校の学習内容を振り返る		学校の学習内容を振り返る	数の確かめ」で、小学校の学習内容を振り返る
本市生徒の学習の状況等	○ 既習の学習内容を手掛かりに、新たな課題を解決しようとする態度の育成						
	- 本文中の「ちょっと確認」で既習の学習内容を明示する（全学年） - 巻頭の「大切にしたい数学の学び方」で、問題解決的なる学習が展開できるようにする（全学年）	- 本文中の「思い出そう」で既習内容を明示する（全学年） - 巻頭の「数学の世界へようこそ」で、問題解決的なる学習が展開できるようにする（全学年）	- 各領域の「ふりかえり」で既習内容を明示する（全学年） - 巻頭の「この教科書を使った数学の学び方」で、問題解決的なる学習が展開できるようにする（全学年）	- 本文中の「もどって確認」で既習内容を明示する（全学年） - 巻頭の「みんなで数学をはじめよう！」や本文中に「はてな？」「なるほど！」「だったら！？」を位置付け、問題解決的なる学習が展開できるようにする（全学年）	- 本文中の「ふりかえり」で、既習内容を明示する（全学年） - 巻頭の「問題発見・解決の流れ」で、問題解決的なる学習が展開できるようにする（全学年）	- 本文中の「ふりかえり」で既習内容を明示する（全学年） - 巻末の「学びの自己評価」で問題解決的なる学習が展開できるようにする（全学年）	「次の章を学ぶ前に」で既習内容を明示する（全学年） - 巻頭の「数学の学習を始めよう！」で、問題解決的なる学習が展開できるようにする（全学年）
	○ 根拠等を明確にして説明する力の育成						
	- 登場人物による吹き出しで、数学的な見方・考え方を明示する - 単元終盤の「深い学び」で、知識・技能を活用して表現する力を育成する	- 巻頭の「数学の世界へようこそ」で、代表的な数学的な見方・考え方を明示する 「Q判断しよう」「Q伝えよう」で、学習した内容を基に判断したり、周りの人に考えを伝えたりする	- 導入問題の「Q」に数学的な見方・考え方を明示する - 単元終盤の「説明する力をつけよう」で、論理的に思考・判断したり表現したりする	- 登場人物による吹き出しで、数学的な見方・考え方を明示する 「みんなに説明しよう」や「話し合ってみよう」のマークを付けた問題で、自分の考えを説明したり、伝え合ったりする	- 登場人物による吹き出しで、数学的な見方・考え方を明示する 「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」のマークを付けた問題で、自分の考えを説明したり、伝え合ったりする	- 巻頭の「数学的な見方・考え方」で代表的な見方・考え方を明示する - 登場人物による吹き出しで、対話場面を設定し、対話的な学びを促す	- 本文中の「天切な見方・考え方」で、数学的な見方・考え方を明示する 「説明できるかな？」のマークを付けた問題で、数学的な表現を用いて説明する
	○ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着						
	- 授業の境目に「クイックチェック」や節末に「基本の問題」を設定する - 章末の「章の問題」で、習熟度に合わせて取り組むことができる	- 学習のはじめに活動・例・例題を適切に配置し、学ぶことを明確にする - 章末の「○章をふり返ろう」「力をのばそう」で、習熟度に合わせて取り組むことができる	- 例題の解答をポート形式で模範的な解答方を示す - 章末の「○章のまとめの問題」を基本・応用・活用に分け、習熟度に取り組むことができる	「例」と「問」の間に「たしかめ」の問題を設定し、スモールステップにより生徒のつまづきに対応する - 章末の「たしかめよう」「力をのばそう」で、習熟度に合わせた取り組むことができる	「例題」の直後に、それにならって解くことができる「問」を配置する - 章末の「学びをたしかめよう」「学びを身に付けよう」で、習熟度に合わせた取り組むことができる	「例」や「問」、必要に応じて「練習問題」を細かく配置する - 章末の「問題A」「問題B」で、習熟度に合わせた取り組むことができる	- 小節ごとに「めあて」を示したり、「例」に見出しを付け、学習内容をつかみやすくする - 章末の「○章の問題」「とりくんでみよう」で、習熟度に合わせた取り組むことができる